

入試年度	2023	入試方式	一般	課程	博士後期
研究科	文学	専攻	史学	領域(分野)	日本史学
出題のねらい					
<p>I 日本の歴史上、最も大きな画期である近世と近代の時代区分について、政治史のみならず経済史・文化史・社会史などの方面からも、的確な議論を提示できるかを確かめるのがねらいである。</p> <p>II 研究において必要不可欠な史料を適切な現代日本語に訳すことができるか、史料に登場する言葉が何を指すのかを理解して史料の内容を説明できるかを確かめるのがねらいである。</p>					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
<p>I 近代の始まりは一般に明治維新とされることが多いが、ペリー来航、さらには三大改革まで遡らせる議論や、逆に版籍奉還・廃藩置県、地租改正・西南戦争、内閣制度・憲法発布、日清戦争まで下げる考え方もある。政治・制度(法制)・経済・社会・文化(思想・宗教・芸術など)のどれに注目するかによっても変わってこよう。また、諸分野による区分が同時期になるべきとする考え方もある。どのような解答をするにせよ、研究史を踏まえたうえで、適切に歴史用語・学術用語を用いて、自己の考えを説得的に叙述することが求められる。</p> <p>II 史料文中には「娼妓」「娼廓」など、解答のヒントとなる言葉がある。それらの言葉を手がかりにして、この史料が何を記しているのかを考えながら読み解くことが求められる。また、設問2と設問4では「私窩子」という言葉の意味を問うているが、私娼の意味であると理解した上で解答・現代語訳することが重要である。漢字表記の外国地名を問う問題は、「英」「仏」「独逸」のそれぞれ国名が分かれば、国名を手がかりに都市名を解答することができる。</p>					